

平成 25 年度協働事業の評価に係る審査

各事業の概要及び委員会意見

協働事業名	ノーバディーズ・パーフェクト！完璧な親なんていない！		評価欄 B
協働事業団体	特定非営利活動法人 子育て支援グループ ひまわりのお家	市担当課	保健センター
事業の概要	1. ノーバディーズ・パーフェクト（NP）講座 ファシリテーターを講師として、親の自信回復と、孤立育児の解消・虐待未然防止となるよう参加型の連続講座を行った。 2. ドロップインプログラム（DP） NP 講座終了後のフォローも行いながら育児不全から起こる虐待未然防止の強化策となる自由参加型の講座を行った。		
委員会意見	本事業は、平成 23 年度から 3 年間の蓄積で確立した方法論やネットワークを生かし、参加者の評価が非常に高い、充実した講座を行っている。 今後は、どのような特性を持った人が支援の対象なのかをより明確にすることで、本当に必要としている人に焦点を当てることができると考える。 平成 25 年度で本制度による協働事業は終了となるが、今年度以降も保健センターと協力し、事業化できるよう継続していただきたい。		

協働事業名	水戸の子育て情報誌づくり		評価欄 A
協働事業団体	水戸子育てネットワーク「みとこみ」	市担当課	子ども課
事業の概要	<p>子育て中の“ママ目線”による子育て情報誌の平成 25 年度版の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て中の親が定期的に子連れで集まり，情報収集や意見交換を重ねて，より身近な視点に沿った情報誌を作成した。 ・昨年度掲載した内容を更新し，公園等の公共施設の情報や新しい講座の情報，民間情報（スーパーやレストランなどで行う子連れサービス等）も掲載した。 		
委員会意見	<p>平成 25 年度の改訂版でさらに内容が充実し，公園等の公共施設や民間の情報など，とても細かい情報まで掲載されており，高く評価できる。一方で，改訂版の校正は大部分を市が担当したこともあり，手作り感が少なく，画一的なものになった印象があった。今年度は，市と団体が十分協議して，より子育て中の「ママ目線」の情報誌にしていきたい。また，配布方法として，市の窓口置くほか，取材先にも配置するなど，本当に必要な人の手に渡る具体的な方法を考えていきたい。</p> <p>今年度で本制度による協働事業は終了となり，情報誌の紙媒体としての発行は最後になるとのことだったが，終了後も市担当課と連携・協力しながら，Web ページを活用するなどして，子育て中の「ママ目線」の情報を提供し続けていきたい。</p>		

協働事業名	子どもとおとなが築くコミュニティーアート 《放課後の学校クラブ》の定着と拡張を目指して		評価欄 B
協働事業団体	放課後のクラブ実行委員会	市担当課	総合教育研究所
事業の概要	<p>「もうひとつの学校」をつくるプロジェクトの定着と普及</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 活動定着事業 学校関係者との連携を強化するための協議を行った。 2. 活動普及事業 「放課後の学校クラブだより」の発行やWEBサイトの運営, 「放課後の学校クラブの教科書」を発行した。また、水戸芸術館 で開催された「こども・こらぼ・らぼ」に参加し、「すごろく学校」 を実施した。 		
委員会意見	<p>平成 25 年度では、「放課後の学校クラブの教科書」を作成・発行し、独自に方法論を確立したことは高い評価を得た。しかし、市担当課と団体との話し合いが不足している印象があるため、双方のコミュニケーションをより活発にし、この事業を行うことでどのような効果が生まれてくるのか検証し、今後の事業運営に生かしていただきたい。</p> <p>平成 26 年度には、教科書を活用して、浜田地区だけではなく、他の地区での開催も検討し、モデル事業となるように協議していただきたい。また、地域住民との関わりを重視し、子どもから地域活性化へつなげるという視点を持って事業を進めていただきたい。</p>		

協働事業名	Let' s DANCE!! ～ダンスをみんなで楽しもう!～		評価欄 A
協働事業団体	W_αLPHA	市担当課	総合教育研究所
事業の概要	<p>ストリートダンスが小・中学校の授業として導入されたことを受けて、教員向けの講習会を行い、各学校でモデル授業を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教員向けの講習会の実施 モデル授業内容の実技研修，生徒への評価の仕方と指導方法の講習を行った。 2. 各学校でのモデル授業の実施 各小・中学校に出向き，基本的なリズムの取り方や，振り付けの指導等を行った。 		
委員会意見	<p>本事業は，新しい教育であるため，学校側から様々な意見が出たようだが，市担当課と団体が密に話し合いを行い，学校側と意思疎通を図りながら実施しており，高い評価を得た。</p> <p>モデル授業の実施に関して，学校側が団体に任せきりだったことが反省として上げられていたが，さらに学校側とも話し合いを重ね，団体・学校・市担当課が連携して，児童・生徒のダンスに対する理解を深めることで，より良いモデル授業にしていきたい。</p> <p>今後は，ダンス発表会等，児童・生徒の交流の場が増え，一般の人にも理解されるような工夫もしていきたい。</p>		

協働事業名	地場農産物利用促進事業 水戸ご当地カレー 「MITO カリープロジェクト」		評価欄 B
協働事業団体	いばらき KIZUNA プロジェクト	市担当課	農業技術センター
事業の概要	<p>1. 水戸カレーバトルの開催 地元農産物を使用したご当地カレーを出品し、人気投票を行い、ご当地カレーとして全市民的な水戸の新しいブランドに育て、水戸のイメージアップにつなげるイベントを開催した。</p> <p>2. オリジナルカレーレシピコンテストの開催 個人が地元農産物を使用した新しいレシピ・商品を広く募集し、3名の募集者の中から優勝者を決定した。また、市内学校給食として全小中学校で提供した。</p>		
委員会意見	<p>平成 25 年度の水戸カレーバトルでは、来場者数が 6000 人に上るなど、例年以上の盛り上がりがあった。しかし、カレーと地元農産物のどちらを PR したいのか明確ではなく、趣旨が曖昧になっている印象がある。カレーと地場農産物との結びつきを明確にして、今後のイベントに生かしていただきたい。また、「MITO カリー」の周知度を高めるために、市担当課と連携しながら、PR の仕方に工夫をして、更なるイメージアップに繋がるように継続していただきたい。</p> <p>オリジナルカレーレシピコンテストでは、市内学校給食として提供するだけでなく、使用した地元農産物について児童に説明するなどの工夫をして、地場農産物利用促進につなげていただきたい。また、応募者が多くなるよう、飲食店等に募集の協力をお願いするなど、事業継続に向け工夫していただきたい。</p>		

協働事業名	木戸房池ビオトープ整備事業		評価欄 B
協働事業団体	特定非営利活動法人 エコ・グリーンいばらき	市担当課	環境課
事業の概要	<p>木戸房池ビオトープの整備</p> <p>元々自生していた野生の動植物が棲みやすい、自然の生態系が機能する空間の実現を目指し、ビオトープの整備を行った。具体的には、重機による整地（ビオトープ地拵え作業）や、ビオトープ周辺の清掃作業、子ども会と協力して山百合の球根植え付け等を行った。また、「里山の文化と自然観察会」を開催した。</p>		
委員会意見	<p>平成 26 年度に向けて新たに進めている事業もあり、様々な団体と連携・協力して活動を進めている点で高い評価を得た。また、子どもたちと活動する機会を作り、周辺地域の住民・ボランティア団体等と連携して作業を行うなど、市民一人ひとりが地域に愛着を持つきっかけにもなっている。</p> <p>今後は、市内の緑地環境を保全・整備するモデル事業となるように、活動記録を残したり、取組を周知したりなどの工夫をし、今後の事業に繋げていただきたい。</p>		

協働事業名	外国人を対象とした防災意識啓発事業		評価欄 A
協働事業団体	みと男女平等参画を考える会	市担当課	地域安全課
事業の概要	<p>1. 外国人の意見集約 団体のネットワークを活かして、市内在住の外国人向けに、防災のアンケートや外国人との意見交換会（2回）を実施した。</p> <p>2. 外国人を対象とした防災ノートの作成 外国人の意見をもとに、水戸市の実情に即した防災パンフレットを作成した。言語としては、英語、中国語、韓国語の三ヶ国語に対応したほか、外国人にわかりやすい「やさしい日本語版」のパンフレットも作成した。</p>		
委員会意見	<p>水戸市の実情に即した防災パンフレットが完成し、団体も市担当課も協働の力を実感しており、高い評価を得た。</p> <p>今後は、パンフレットの配布の仕方について、団体と市担当課が連携して取り組み、より多くの外国人市民の手に確実に渡るような工夫をしていただきたい。また、他の市町村にもこのような取組が広がるよう、情報交換をしながら取り組んでいただきたい。</p> <p>平成 26 年度の計画にあったように、パンフレットを活用した講座や防災訓練を市民とともに実施することで、地域とのつながりを作るような、きめ細かい対策を行い、外国人の防災意識の高揚に努めていただきたい。</p>		

評価過程・評価基準

【 評価過程 】

5月27日に実施された事業報告会において、協働事業の実績報告票をもとに、協働事業評価シートに沿って、事業の概要、利用者からの評価及び決算報告などについて、協働事業者と市の担当課から報告を受けた。また、協働事業者及び市の担当課に対して、委員による質疑応答を行った。

その後、全体での審議において、各委員の採点を合算し、評価した。また、今後事業を展開するにあたって、協働事業者と市の担当課とが更に協議を深めるべき事項について意見した。

【 評価基準 】

実績報告票及び協働事業評価シート並びに事業報告会をもとに、Plan（企画・計画段階）、Do（実行）、Check（評価）、Action（見直し）の4つの項目に沿って採点した。各委員の持ち点を20点とし、全委員の採点を合計した総合得点を評価の基礎とした。

また、今回の審査では、採点基準を次のように設けた。

☆ 各委員の1項目の評価（5点満点）×4項目×7人＝140点満点

			採点基準
A	評	価	105～140点
B	評	価	70～104点
C	評	価	35～69点
D	評	価	0～34点

☆ 審査項目及び審査の視点（20点満点）

審査項目	審査の視点	配点
1 P l a n (企画・計画段階)	① 事業目的を明確にし、協働する必要性について十分検討したか。 ② 協定書の内容は明確にしたか。 ③ 事業計画は双方協議して作成したか。	5
2 D o (実行)	① 事業の進捗を共有したか。 ② お互いに役割を果たしたか。 ③ 適切に進行管理できたか。 ④ 変更事項の協議を柔軟にできたか。	5
3 C h e c k (評価)	① 組織内部で事業を振り返ったか。 ② 受益者の評価を得られたか。 ③ 双方で事業を振り返ったか。	5
4 A c t i o n (見直し)	① 改善すべき点が明確になったか。 ② 改善方法は具体的か。	5

